特集

アートと社会貢献を連動させた新事業

art bridge®

もっと身近にインクルーシブアート

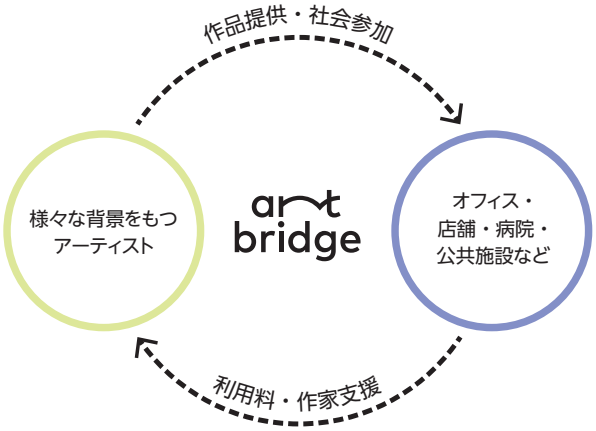
関西・大阪21世紀協会は、障がいのある方を中心とする多様な背景を持つアーティストの文化芸術活動の促進と、アートによる関西・大阪の活性化に向けて、2023年12月、サラヤ株式会社（大阪市）の協力をもとにインクルーシブな社会を目指すアート作品の貸出事業『art bridge（アートブリッジ）― もっと身近にインクルーシブアート ―』をスタートしました。

※インクルーシブ（inclusive）…「包み込む」を意味する言葉で、インクルーシブアートは、障がいの有無や年齢、性別、国籍などにかかわらず、誰でも参加できる芸術活動のこと。インクルーシブ社会（共生社会）は、すべての人がお互いの違いを認め合い、人権と尊厳を大事にして生きていける社会を指す。

事業の目的と概要

本事業は、障がいのある方を中心とする作家の、力のあるアート作品を貸し出し、作家や作品と利用者が繰り返し出会う機会を継続的に作り、身近で鑑賞してもらうことにより、その多様な感性に触れ、理解を深めてもらうことを目的としています。

貸出作品は、単に障がい者のアート作品としてではなく、その障がいが「個性」「強み」「唯一無二」などのポジティブな要素として、現代アート作品に昇華されているものを厳選しています。また、貸し出しの際の利用料の25%を作者に還元することで、障がいのある方の創作活動や自立支援などにつなげていきます。この事業を通してSDGs（持続可能な開発目標）やインクルーシブな社会の実現をも目指しています。



貸出作品

■**高精細印刷による複製画（レプリカ）**
作品の魅力を伝えるクオリティを重視しており、文化財の複製にも用いられるGiclee Printing※などを使用しています。
※Giclee Printing（ジクレー印刷）…… 高性能インクジェットプリンタを用いて、原画をスキャンしたデジタルデータを高精細かつ広色域に再現する現在最先端の印刷技術。

■**作品サイズ（額サイズ）：625×475mm**
A2（594×420mm）より少し大きめのサイズです。

■**木製額入りでの貸し出し**
どんな場面にも合うシンプルな額（日本製）を厳選しています。

■**作品をご指定いただく「希望指定コース」とアートマネージャーに任せる「おまかせコース」をご用意しています。**

貸出先

オフィス、店舗、病院、公共施設などへの、事業者向けの貸出でスタートしています。現時点では、個人宅向けは対象外としています（将来は個人宅向けにも拡大を予定）。

料金プラン

作品の交換回数が選べる「レギュラープラン」と、1か月単位で利用できる「スポットプラン」をご用意しています。

レギュラープラン　66,000円（税込）～／年

ご利用期間は**1年単位**。交換・配送手数料込。

※契約期間満了の2か月前までに、所定の方法で停止手続きまたはプランの変更を行わない限り、次の1年も自動更新とさせていただきます。

■**レギュラー1プラン** …… **66,000円（税込）／年**
作品交換は、年に1回（12か月後）

■**レギュラー2プラン** …… **74,800円（税込）／年**
作品交換は、年に2回（6、12か月後）

■**レギュラー3プラン** …… **83,600円（税込）／年**
作品交換は、年に3回（4、8、12か月後）

※1年のみのご利用の場合は、各プランの12か月後の作品交換はありません。

スポットプラン　8,800円（税込）／月

ご利用期間は**1か月単位**。別途、交換・配送手数料要。

交換・配送手数料：8,800円（税込）／点（1回分の往復送料）
・交換・配送手数料は「北海道・沖縄・その他の離島」を除き、均一料金です。

共生社会の実現に向けて（2023年11月29日・記者発表にて）

﨑元利樹理事長

当協会の﨑元利樹理事長はプロジェクトの記者発表において、「コロナ禍にあって日々の行動制限を経験したことで、暮らしに安らぎや活力を与えてくれる文化・芸術の大切さを再認識した。また、世界各地で起こる戦争や対立・分断の悲劇を見るにつけ、人種や文化などの違いを越えて互いに多様性を認め合うことの大切さを痛感している。アートブリッジはこうした問題解決に貢献し、共生社会の実現につなげていくもの。是非多くの人のご協力を賜りたい」と呼びかけました。

また、サラヤ株式会社の森樹里氏（広報宣伝統括部）は、「多くの人に多様な背景を持つさまざまなアーティストの芸術作品に触れる機会を持ち、楽しんでいただきたい」という同社の更家悠介社長の挨拶を代読後、「世界の衛生・環境・健康に貢献することを事業理念とする当社は、SDGsにも長年取り組んできた。アートには人を元気づける力があり、多様な背景を持つ方々と何か一緒に取り組みたいという思いがあった」と、アートブリッジへの参画の意義を語りました。

森樹里氏

プロジェクト構成団体

- **事業主体** …… 公益財団法人　関西・大阪21世紀協会
- **リードパートナー** …… サラヤ株式会社（資金協力）
- **パートナー** …… 株式会社清華堂（原画の高精細複製で協力）
- **運営会社** …… office N（オフィス・エヌ／作家や作品の選定、作品貸出、利用料受領、作家への支払いなど）
- **連携** …… 大阪府

大阪府と連携協定を締結

当協会はアートブリッジを進めるにあたり、2023年11月、大阪府との間で連携協定「障がいのある人の文化芸術活動等にかかる連携に関する協定」を締結しました。

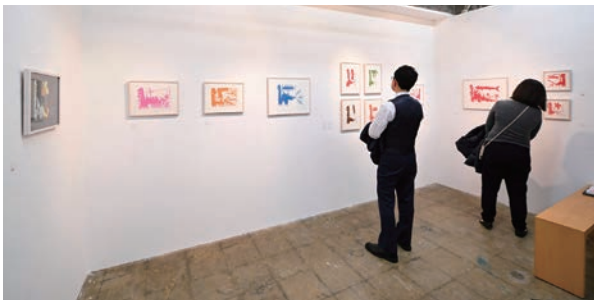
大阪府は2015年より府内の障がいのあるアーティストの作品を現代美術のマーケットで紹介する「カペイシャス（capacious）事業」を展開しています。capaciousは「容量の大きい」「包容力のある」を意味する言葉で、同事業ではアートに対する既成の枠組みを取り払い、作品を純粋に鑑賞することで広がる可能性を追求するとともに、作家や作家が通う施設のスタッフと、美術関係者やアートファンとをつなぐことを目的としています。

同事業では、大阪府が実施していた障がいのある方対象の「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト（2009～2017年）」の受賞者などの作品を取り扱っており、グランフロント大阪にある家具店「HIDA（ひだ）大阪店」でこれらの作品の一部を常設展示しています。HIDAは飛騨産業株式会社（岐阜県高山市）が展開するオリジナル木工家具のブランドで、同店ではHIDA製品とカペイシャス作品をコーディネートすることにより、アートとクラフトを楽しむライフスタイルを提案しています。

また、カペイシャスとアートブリッジの運営事務局を担っているoffice Nでは、「カペイシャス展覧会」の開催やアートフェア「ART OSAKA」への出展など、大阪を中心に国内外で障がいのある方の作品を紹介しています。なかでもカペイシャス展覧会は、ブックショップとカフェの店内に併設されたギャラリー（Calo Gallery・大阪市）で定期的に開催されており、画廊に行き慣れていない人でも入りやすいと好評です。

当協会は今後、アートブリッジ（貸出事業）と大阪府が進めるカペイシャス（販売事業）との連携による相乗効果を生かしながら、障がいのある方を中心とする多様な背景を持つアーティストの文化芸術活動の促進とアートによる大阪の活性化に向けて活動してまいります。

HIDA大阪店：大阪市北区大深町3-1　グランフロント大阪北館４階
営業日：平日11:00～19:00／土日祝日10:00～19:00（水曜、第３木曜休）
TEL：0120-117-970（フリーダイヤル）、06-6110-5022


カペイシャス展覧会　Calo Gallery：大阪市西区江戸堀1-8-24 若狭ビル５階

ご利用申し込み

公式ウェブサイト「初回会員登録」からお申し込みください。▶https://art-bridge.jp

お問合せ先：art bridge事務局
〒540-0012　大阪市中央区谷町5丁目6-7　中川ビル3B（オフィス・エヌ内）
Email：info@art-bridge.jp　TEL：06-6777-8305

貸出作品（一例）

art bridgeでは「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」の受賞者など、現代美術マーケットでの評価も高い11名の作家が参加しています。今後、作家は大阪府内だけでなく関西エリアに広げて順次追加する予定です。

穴瀬 生司（あなせ せいじ）　《うみ》2017年
線や抽象的な図形を画面の余白を埋めるように描いた躍動感のある作品。

有田 京子（ありた きょうこ）　《てんてんおばけ》2014年
身の回りのものなどを色彩豊かな点描で描いた複雑で温かみのある作品。

泉 達也（いずみ たつや）　《キノコ》2019年
動植物図鑑を元に、シンプルな輪郭で対象を捉えたほのぼのとした優しさのある作品。

桂 典之（かつら のりゆき）　《馬とメーター》2013年
電車のメーターや競走馬など、好きなモチーフを繰り返し描いた作品。

菊池 沙耶香（きくち さやか）　《さかな》2015年
色とりどりに着彩されたモチーフが画面一杯に描かれ、今にも溢れ出しそうな作品。

橋本 良平（はしもと りょうへい）　《緑と赤と緑の絵》2010年
ツルツルした紙にフェルトペンが滑る感覚が好きで、その行為を作品に昇華。

平野 喜靖（ひらの よしやす）　《無題》2016年
新聞から抽出した文字を大胆かつ丁寧に描き出した作品。動物シリーズもある。

矢形 聡（やがた さとる）　《カボチャとぶどうといちぢく》2019年
植物や季節の野菜などを、墨を使って一気に描き上げた生命力溢れる作品。

（敬称略）

アートマネージャーの視点 ―アートブリッジ運営事務局 office N

office Nは、現代美術のコレクションのコンサルティングや展覧会など、現代美術と個人や企業をつなぐことを業務とし、2013年に設立されました。代表の宮本典子氏（アートマネージャー、日本現代美術振興協会事務局長）は、10年にわたって障がいのある方のアート作品を扱うなかで、「既成概念を超えた思いもよらない表現に魅了され続けている。作家の個性やこだわりがそのまま表現されていて、作家の思いをシンプルに想像することができるから、コンセプトありきの現代美術作品に比べてハードルも低い」といいます。

宮本典子氏

また、福祉施設でのアートイベントに携わった経験のある田中清佳氏（office N・アートマネージャー）は、「カペイシャスやアートブリッジ参加作家の作品には、一般の作家が嫉妬するのではないかと思えるほど圧倒的な強さを感じる」と話す一方で「障がいのある方の中には集中力がすごい人もいて、制作ばかりしていると疲れ切ってしまう。過労を避けるため福祉施設では通所者へのさまざまな配慮をしており、その状況を踏まえた対応が必要」と、福祉の現場でのやり方や課題を見聞きしてきた経験が、アートブリッジの運営にも生かせるといいます。

田中清佳氏

作家の選定について宮本氏は、「福祉的な観点でいえば、障がいのある方の芸術活動への参加の機会を増やすために、できるだけ多くの作家を紹介すべきだと思うが、アートマネージャーとして納得できる作品でなければ、お客様を説得できない。例えば、この作家なら将来もっと価値が高まるだろうという視点も重要」と強調。こうして障がいのある方の作品が、純粋なアート作品として広く周知されることを目指しています。

art bridgeはSDGsの９つの目標に貢献していきます

目標①：貧困をなくそう
目標③：すべての人に健康と福祉を
目標④：質の高い教育をみんなに
目標⑧：働きがいも経済成長も
目標⑩：人や国の不平等をなくそう
目標⑪：住み続けられるまちづくりを
目標⑫：つくる責任 つかう責任
目標⑯：平和と公正をすべての人に
目標⑰：パートナーシップで目標を達成しよう

作家紹介

柴田（しばた） 龍平（りゅうへい）さん

日常の数字をアート作品へと昇華

人の誕生日や好きな音楽の長さ、スーパーのレシートの金額など、日常生活で接する数字に強い関心を持つ柴田龍平さん。そうした数字の一つ一つを模様のように書き込んで独創的なアート作品に昇華させ、「第５回大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」（2015年度）で最優秀賞を受賞したこともあります。

柴田さんは、2007年から社会福祉法人「ユウの家」（大阪府堺市・就労継続支援Ｂ型事業所）でパン製造を手伝うかたわら、同所が開く週１回の絵画クラブの時間に作品制作を行っています。もともと絵を描くことは苦手で興味もなかった柴田さんですが、絵画クラブのサポートスタッフから「得意な数字を書いてみたらどう？」と促されて始めたのがきっかけでした。同じ絵画クラブのメンバーたちが細かく丁寧に描いているのを見て、自分もそのように数字をたくさん書くようになったといいます。いろいろな展覧会に行って絵を見たことも、作品づくりの参考になりました。

制作にとりかかる際には必ず電卓を弾き、独自の計算方法で答え合わせをしてから書き込みます。画材にこだわりはなく、無地の包装箱などにも同様のタッチで制作します。１点仕上げるのに数か月かかり、大きな作品になると１年近くかかることも。そうしてこれまで100作品ほど制作してきました。これからも自身のスタイルを変えずに続け、また今度はいつネクタイを締めて表彰式に出られるかと楽しみにしています。

《1994 ～ 2002》2020年

柴田龍平：1988年大阪府出身。「大阪府現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」で優秀賞（2012年度）、最優秀賞（2015年度）を受賞。

曽祇（そぎ） 一晃（かずあき）さん

昆虫たちとのわくわくした出会い

恐竜と昆虫が融合した、毒々しくも美しい空想上の生き物を切り絵で描く曽祇一晃さん。１枚の色紙をハサミで切り抜いたシルエットはとても精緻で、全体が一つにつながっています。「トゲトゲの部分を切り落としたり、間違って切ってしまったりしないよう注意しています」という曽祇さんは、制作にとりかかるときは頭の中で完成形がはっきり描かれているから下書きもなし。失敗したことは一度もないといいます。トゲトゲの部分は花をイメージしており、作品名も自分で考えてつけます。

切り絵を始めたのは小学５年生のとき。当時から将来はプロの切り絵作家になりたいという夢を持ち、これまでに200点以上制作してきました。切り絵に出会う前は描き絵もしており、2014年からは本格的な作品づくりに取り組んでいます。こちらも恐竜と昆虫がテーマで、カラーボールペンで描く精細なタッチが特徴です。

普段は大阪府羽曳野市の作業所に通いながら、週に１回、アートカンパニー「なないろサーカス団」（奈良県王寺町・就労継続支援Ｂ型事業所）で作品制作をしています。同所では、午前中は近くの里山に出かけて農作業や動物などの世話をするのが日課ですが、曽祇さんは昆虫探しに集中。ムカデやハチが好きで、木の枝などで優しく捕獲し、じっくり観察した後は森に放して帰ります。図鑑でも確かめ、皆が驚くほど知識も豊富です。作品には、そんな大好きな昆虫と出会ったときの、わくわくした思いがこもっています。

《木の花蠍鉄砲ロボザウルス》2021年

曽祇一晃：1977年大阪府出身。2023年12月にカペイシャス主催による自身初の個展を開催。